



第4回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」 プロジェクトの概要と主な成果

- クルーズ 第72回ピースボート「地球一周の船旅」
- 期 間 2011年1月23日(日)～2011年4月18日(月)横浜発着 計86日間
- 使用客船 オセアニック号
- 参加被爆者 9名
内訳: 広島被爆5名 長崎被爆3名 被爆二世1名
- プロジェクト通称 おりづるプロジェクト
- 主な成果
 - ①グローバルヒバクシャのネットワークをつくり、共同提言を作成
 - ・被爆二世をはじめ、フランスの核実験やウラン採掘による核被害者の連帯を実現
 - ・「ノーモア・グローバルヒバクシャ」の提言は、福島原発事故が起きた今こそ重要
 - ②初の「非核特使」としての取り組み
 - ・大地震直後、ジュネーブ国連本部で日本政府とピースボートの共催行事
 - ・「中東非核地帯」会議に向け、日本に強い期待
 - ・コロンビアの大統領、サウジアラビアの王子、仏領ポリネシアの元大統領などと面会
 - ③これからの継承運動の担い手の創出
 - ・若い被爆者と被爆二世による活動の広がり
 - ・高校生平和大使の参加と、タヒチおよびオーストラリアの若者ネットワークの形成
 - ・若者たちと被爆者の共同の取り組み
 - ④世界各地でのメディア掲載
 - ・タヒチ6誌、スペイン8誌、トルコ8誌ほか、世界各地の新聞、WEB、TVなど計50社以上で報道



- 詳細
HP <http://www.peaceboat.org/info/hibakusha/index.shtml>
ブログ <http://ameblo.jp/hibakushaglobal/>

●参加被爆者略歴



壺井進(つばい すすむ)

広島被爆 1928.7.17 生まれ 被爆当時 17 歳
兵庫県西宮市 在住

爆心地から約 4.5 キロ地点にある工場にて被爆。原爆による火災が広がり、帰宅できず当日は知人宅に避難。翌日帰宅すると母親が亡くなっていた。その後、若くして父親も亡くなり、30 歳ごろまで病弱ながらも仕事をしなければならぬという苦しい生活を強いられた。

1983 年から証言活動をはじめ、各国の学生などと灯籠を使って交流を続けてきた。西宮市原爆被害者の会事務局長を経て現在相談役を担っている。



平井昭三(ひらい しょうそう)

広島被爆 1929.7.20 生まれ 被爆当時 16 歳
広島県安芸郡 在住

16 歳のとき学徒動員として軍需工場へ向かう途中、爆心地から4キロ地点にある友人宅で被爆。会社へ向かった父と建物疎開作業へ行った弟を探すため、翌日市中心部へ入るも父親は白骨となっており、弟の遺骨は未だに見つかっていない。

現在は広島平和記念資料館の展示や平和記念公園内の慰霊碑等の解説を行うピースボランティアや「韓国の原爆被害者を救援する市民の会」、平和のためのヒロシマ通訳者グループ(HIP)などで精力的に活動中。



深堀柱(ふかほり あきら)

長崎被爆 1930.3.30 生まれ 被爆当時15歳
長崎県長崎市 在住

学徒報国隊員として長崎消防署にいたところ、被爆した。唯一の家族であった母親は行方が分からず、一時は戦災孤児として消防署で署員の仕事を手伝いながらの生活を余儀なくされた。その後、防空壕にて母親と再会を果たしたが、60 代のとき母親はガンにおかされ他界した。

現在はカトリック系の学校や教会などで証言活動を行っている。また、活動は日本国内にとどまらずイタリアにて地元高校生や県議・市長などを対象に証言した経験なども持つ。現カトリック長崎大司教区広報委員。



高橋節子(たかはし せつこ)

広島被爆 1934.3.4 生まれ 被爆当時 11 歳
福岡県宗像市 在住

11 歳のとき、国民義勇隊として建物疎開作業を行うため市内へ向かった母親を探し求め、叔父とともに入市し被爆。市内に住んでいた祖母や叔母は遺体となって発見され、母親は未だに見つかっていない。

「宗像原爆被害者の会」に参加し、語り部の活動をするだけでなく平和展示会や記念誌作成などに携わった。自身の体調不良から一時活動を休止していたが、今回の航海を機に再び活動を再開予定。

**山中恵美子(やまなか えみこ)**

広島被爆 1934.3.11 生まれ 被爆当時 11 歳
 広島県呉市 在住

国民学校6年生のとき、爆心地から 1.4 キロ地点で被爆。戦後 10 年余りは結核や原爆症を患い入院を繰り返す。結婚後は三人の子どもに恵まれるが、血小板減少症や原爆白内障などを患ったり、被爆時に体に突き刺さりそのままになっていたガラス片が原因で時折腫みができたりといった生活が 30 年以上続いた。

その後、甲状腺ガンなどを患いながらも広島原爆被害者団体協議会や呉原友会などにて語り部活動を展開。現在「呉原友会」理事。

**末永浩(すえなが ひろし)**

長崎被爆 1936.1.8 生まれ 被爆当時9歳
 長崎県長崎市 在住

母親と2人の妹が2.3キロ地点で被爆。自身と兄は疎開していたため助かったが、8月19日に自宅へ向かうため入市し、被爆。その後、妹1人と母親は原爆の影響と思われるガンで他界。

「長崎証言の会」事務局長を経て、現在運営委員を務める。現(財)長崎市平和推進協会継承部会員。そのほか、各地での証言活動の傍ら、2004 年から2年間、中国・華僑大学でアジアに対する日本の加害や被爆に関する授業を行った。

**西田吾郎(にしだ ごろう)**

広島被爆 1941.11.16 生まれ 被爆当時3歳
 広島県広島市 在住

3歳8ヶ月のとき自宅前で被爆。広島駅方面へ行っていた母親と、学徒動員で靴屋に行っていた姉も直接被爆を受ける。その後母親は、放射線による脾臓の肥大で長年苦しんだ末、自身が高校2年生の時に急死。

退職後、大学に入学。その際、現役大学生を対象に「広島平和研修」を企画、証言を行う。現在は被爆者支援団体ワールド・フレンドシップ・センター(WFC)に所属。広島ベトナム協会理事。

**田崎昇(たさき のぼる)**

長崎被爆 1944.4.5 生まれ 被爆当時 1 歳
 長崎県西彼杵郡 在住

爆心地から約 5.5 キロ地点にある自宅の庭先で水浴びをしていた際、1歳4ヶ月で被爆。

1980 年から 23 年間にわたり長崎原爆資料館に勤務し、証言の収集や国内外での原爆展開催、国連など海外への核兵器廃絶アピール事業に携わる。また、長崎大学大学院で原爆・平和問題について研究し、NGO 平和活動なども行っている。前長崎市平和推進室長、現「核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会」事務局長、「長崎証言の会」会員

**被爆二世****阪口博子(さかぐち ひろこ)**

1949.7.22 生まれ
 長崎県長崎市 在住

母親が 23 歳のときに長崎にて被爆。叔父の子どもたちと叔母は爆心地から 500 メートルほどのところに住んでおり、原爆投下後 10 日ほどで死亡した。母親は 3.5 キロのところで被爆し、その後直腸ガンと肺ガンを患い他界。

前長崎県被爆二世の会幹事、前長崎県職員組合被爆二世連絡協議会幹事。また、被爆二世としての活動に加え、在外被爆者とりわけ韓国の被爆者への平等な支援を求める裁判の支援なども行っている。

●**主な活動** 13カ国14都市(下記)で証言活動(★印は代表団が下船して訪問。他は船の寄港地)

- 2月5日 パペーテ (タヒチ(仏領ポリネシア))
●タヒチ領土議会を訪問。前大統領で現領土議会議長のオスカー・テマル氏と面会。
- 2月18日 カヤオ (ペルー)
●日秘文化会館訪問。ピジャ・エルサルバドルにて証言会実施。
- 2月25日 カルタヘナ (コロンビア)
●フアン・マヌエル・サントス大統領と面会。カルタヘナ大学にて証言会実施。
- 3月8日 ラスパルマス (スペイン(カナリア諸島))
●憲法9条の碑があるテルデ市「ヒロシマ・ナガサキ広場」にてアウレソアノ・サンティアゴ・カステヤノ市長とともに記者会見を開催。
- 3月10～11日 アウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所 (ポーランド)★
●ホロコースト生存者、ポーランドほか各国の学生と証言交流会を実施。
- 3月13～14日 ジュネーブ (スイス)★
●市民グループ「軍隊のないスイス」「婦人国際平和自由連盟」とともに市民向け証言会を開催。
●国連欧州本部にて、日本政府軍縮代表部と共催で証言会「ヒバクシャは核なき世界を求める」を開催。
- 3月14～15日 ナポリ (イタリア)
●ナポリ考古学博物館にて証言会を開催。★
●セラレ・ハベセ国立中学校、児童文学フェスティバルにて証言会を開催。
- 3月16日 ローマ (イタリア)★
●核・原発問題に関する記者会見に参加。
- 3月19日 ピレウス (ギリシャ)
●タブロス第4小学校にて証言会実施。
- 3月21日 クシャダス (トルコ)
●エゲ大学ボルノバキャンパスにて証言会開催。
- 3月23日 カイロ (エジプト) (寄港地はポートサイド)
●アメリカン大学にて中東非核地帯化に向けた「ホライズン2012」会議開催。
- 3月26日 ジェッダ (サウジアラビア)
●ジェッダ市長であるミシャル王子を表敬訪問。
- 4月3日 コーチン (インド)
●インド医療連盟(IMA)にて証言会を開催。
- 4月13日 マニラ (フィリピン)
●和平プロセス担当大統領顧問室(OPPAP)を訪問し、ルイシト・モンタルボ氏と面会。
●ミリアムカレッジにて証言会開催。

このほかの寄港地:

クリストバル(パナマ)、ポートオブスペイン(トリニダードトバゴ)、マラガ(スペイン)、カサブランカ(モロッコ)、ミコノス島(ギリシャ)、シンガポール、コタキナバル(マレーシア)



●アウシュビッツ・ジュネーブへの欧州プログラム(船から代表団が一時離脱、陸に滞在し活動)

期 間: 2011年3月8日ラスパルマス～2011年3月15日ナポリ

訪問地: アウシュビッツ・ビルケナウ強制収容所(ポーランド)
ジュネーブ国連軍縮本部(スイス)

活動内容: ホロコースト生存者、ポーランドほか各国の学生と証言交流会を実施。
ジュネーブで市民グループ「軍隊のないスイス」「婦人国際平和自由連盟」とともに証言会を開催。
国連欧州本部にて、日本政府と共催で証言会「ヒバクシャは核なき世界を求める」を開催。



●洋上会議開催

1. グローバル・ヒバクシャ・フォーラム

概 要: 世界の核被害者(原爆被爆者、核実験被害者、ウラン採掘被害者)が連帯し、
ヒバクシャの権利と核なき世界にむけた共同提言を作成。

期 間: 2011年1月23日～2011年2月5日

参加者: 《タヒチ》 元核実験場労働者やNGO「モルロアと私たち」スタッフほか若者など計5名
《オーストラリア》 上院議員政策顧問や西豪非核連合のメンバーほか先住民の若者など計5名
《日本》 おりづるプロジェクト参加被爆者9名のほか、高校生平和大使5名が参加



2. 中東非核地帯会議

概 要: 2012年「中東非核地帯」国際会議に向け、市民レベルで中東非核化へのプロセスをつくる。

期 間: 2011年3月19日～2011年3月23日

参加者: エジプト・イスラエル・パレスチナ・レバノン・ヨルダンなど中東各国のNGOや欧州の専門家、
国連の政務官など15名



●船内での活動

- ①証言、講座、ワークショップ、展示
- ②幅広い年代層の「おりづるパートナー」らとともに「おりづるイベント」を開催
- ③軍縮教育家キャスリン・サリバン氏とともに証言を継承するための「紙芝居プロジェクト」を展開

《企画一覧》

- ①証言、講座、ワークショップ、展示など
 - 「全部魅せます!おりづるプロジェクト」(1/25)
 - 「おりづるプロジェクト～平和へのリレー～」(1/26)
 - 「教えて川崎さん」(1/27)
 - 「高校生からのメッセージ～考えませんか?平和のこと～」(1/28)
 - 「グローバルヒバクシャ」(1/28)
 - 「ムルロアと私たち」(1/30)
 - 「美しきオーストラリアへようこそ」(2/1)
 - 「高校生の主張」(2/1)
 - 「ひと夏の青春」(2/2)
 - 「アボリジニと大地のつながり」(2/3)
 - 「公開討論～原子力に未来はあるか～」(2/3)
 - 「おりづる太平洋プロジェクト FINAL～核なき未来への航路～」(2/4)
 - 「被爆二世・三世集まれ!」(2/19)
 - 「おりづるプレゼンツ～教育とは何か～映画『二十四の瞳』上映会」(2/20)
 - 「FLASH OF HOPE～希望の光～上映会」(2/22)
 - 「おりづるしゃべり場」(2/22)
 - 「水先案内人・キャスリン・サリバンプロデュース映画上映」(2/26)
 - 「おりづるアートを作ろう!」(2/26・27)
 - 「キャスリン・サリバン講座:0.016秒の世界」(3/2)
 - 「キャスリン・サリバンパートナー特別セミナー1」(3/3)
 - 「キャスリン・サリバンパートナー特別セミナー2」(3/4)
 - 「一緒に考えよう!～核兵器初級編～」(3/4)
 - 「アウシュビッツの真実」(3/4)
 - 「キャスリン・サリバンとアートを作ろう!」(3/5)
 - 「キャスリン・サリバンパートナー特別セミナー3」(3/5)
 - 「おりづるカフェ」(3/5)
 - 「キャスリン・サリバンパートナー特別セミナー4」(3/6)
 - 「キャスリンワークショップおよび映画上映」(3/7)
 - 「17歳の記憶」(3/9)
 - 「それぞれの「物語」を抱えて生きる」(3/13)
 - 「アウシュビッツ報告会」(3/27)
 - 「紙芝居チーム集まれ!」(3/27～4/2)
 - 「世界から見た日本」(3/28)
 - 「壺井さんと語ろう!」(3/29)
 - 「灯籠を作ろう!」(3/29)
 - 「おりづる中学校」(3/30)
 - 「被爆者として一人の女性として生きた人生」(3/31)
 - 「エコバックを作ろう」(3/31)
 - 「おりづる寄港地証言裏話」(3/31)
 - 「未来への提言～日本とインドの原発事情～」(3/31)
 - 「未来を創るための生きた歴史教育」(4/1)

②「おりづるパートナー」らとともに「おりづるイベント」を企画

■12時間企画みんなで知ろう!おりづるプロジェクト(2/21)

《内容》

- ・おりづるアートを作ろう!
- ・おりづる紙芝居
- ・おりづるパートナーが語るおりづるプロジェクト
- ・おりづるカフェ
- ・地球小学校～おりづるプロジェクトスペシャル～
- ・寄港地報告会
- ・一日成果発表会

■おりづるプロジェクト FINAL イベント(4/5)

《内容》

- ・紙芝居発表(阪口博子さん/深堀柱さん/西田吾郎さん/高橋節子さん)
- ・地球小学校～日本が戦時中にやったこと～
- ・おりづるカフェ
- ・映画「FLASH OF HOPE」上映
- ・未来へ続くヒバク
- ・日本が戦争に近づいてるって本当?
- ・おりづるプロジェクト大報告会